蒲島・熊本県知事は なぜ荒瀬ダムを 直ちに撤去しないのか

住民が荒瀬ダム撤去を
切望する理由と
荒瀬ダム撤去がもたらす
県民への恩恵とは？

白く濁った荒瀬ダム湖 ↑

清流が復活した
荒瀬ダムゲート開放時 →

八代市坂本町鎌瀬
JR肥薩線・球磨川第一橋梁

ゲート全開でダム湖の水位を下げただけで
球磨川再生のきざしが見える

はじめに

下流側から見た荒瀬ダム

県営・荒瀬ダムは、球磨川河口より約20kmの地点に、1955年（昭和30年）に竣工した、高さ25mの水力発電ダムです。建設当時、住民は「水害がなくなる」「観光客が押し寄せ、村が潤う」「電気代がタダになる」などと説明され、全面協力しました。

ところが荒瀬ダムが建設されて50年以上、住民はダムによる水質汚濁、アユなど漁獲量の激減、悪臭や放水時の振動、藻場や干潟の消滅に伴う八代海の魚介類の減少、そして水害被害に悩まされ続けてきました。

荒瀬ダム撤去は2002年（平成14年）、住民の要望を受け、当時の潮谷義子熊本県知事が表明。荒瀬ダム撤去は流域住民の長年の悲願であり、旧坂本村議会や熊本県議会でも議決された決定事項でした。

ところが2008年（平成20年）、蒲島郁夫新知事は、独断で荒瀬ダム存続に方向転換し、ダム撤去を待ち続けていた地元住民との間に大きな混乱を引き起こしました。2010年（平成22年）1月になると、同年3月末で失効する水利権の更新手続きができないことや、新たな水利権の申請には地元漁協などの同意が必要なことを国土交通省から指摘されました。このため、同年2月3日、蒲島知事は荒瀬ダムを2年後に撤去すると、再度方向転換しました。

しかしながら蒲島知事は同年2月24日、球磨川漁協など地元の同意なしで荒瀬ダムの新たな水利権を申請し、自分の任期中は発電事業を継続しようとしています。荒瀬ダム撤去を2年間引き延ばしても、熊本県には何の利益もありません。

荒瀬ダムの位置

荒瀬ダム撤去は、撤去工事による雇用創出や、清流や八代海の復活に伴う第一次産業の再生など地域振興につながる新たな公共事業と呼べるものです。私たちは、川辺川ダム問題の完全解決、荒瀬ダム撤去の即時実現、そして五木村から球磨川・八代海までの再生を目指しています。蒲島県政が住民の声を真摯に受け止め、この問題を早期解決するよう求めるものです。

住民は荒瀬ダム撤去を求め続けた
～荒瀬ダムは球磨川と住民のくらしを破壊した～

●ダムによる水害被害

荒瀬ダム完成後、ダム湖にたまった土砂で川底が上昇したため、水害被害が激増しました。ダムのゲートを全開しても、荒瀬ダムには高さ15mの基礎部分があり、洪水水位を押し上げています。

また、ダムの下流でも洪水時のダム放水により、急激に水害の水位が上がるようになりました。洪水が引いた後には、50～100cmにも堆積した悪臭がする泥土（ヘドロ）が残されるようになりました。

荒瀬ダムによる水害被害
（昭和40年7月3日）

●ダムによる水質汚濁、悪臭や放水時の振動

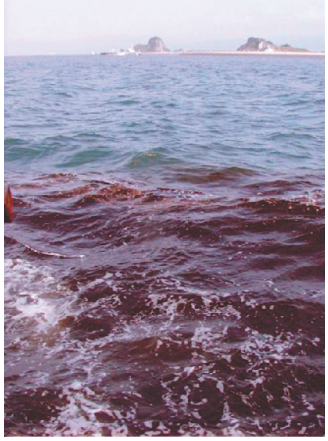
森林のミネラルなどの栄養分がダム湖にたまると、ヘドロとなって水を汚します。富栄養化により、ダム湖では赤潮やアオコが発生するようになりました。ダム湖の悪臭は住民を苦しめます。また、ダム放水時の振動で、ダム周辺の民家の壁には亀裂が入っています。

●アユなど漁獲量の激減

荒瀬ダムができる以前、瀬と淵が連続する清流球磨川は、アユをはじめ多くの生き物の宝庫でした。荒瀬ダム完成により、123ヘクタールのダム湖ができた坂本村では、アユが激減しました。村内に多数いたアユの専業漁師やアユ問屋、舟大工、アユを売り物にしていた観光産業などがなくなり、村は次第にさびれました。

また、荒瀬ダムが土砂をため込むために、ダム下流への土砂の供給が止まり河床の砂利もなくなり、アユの産卵場も消失しました。護岸や橋脚周辺の洗掘なども起こりました。

●藻場や砂干潟の消滅に伴う八代海の魚介類の減少



八代海の赤潮（2002年夏）

荒瀬ダム完成後、最初に影響がでたのは海苔漁業でした。700軒ほどあった海苔漁業者は、数年のうちに100軒になり、現在はわずか4軒です。荒瀬ダムが富栄養化した水を放流するため、八代海でも赤潮がたびたび発生するようになり、2000年の漁業被害総額は39億円にのぼりました。

荒瀬ダムが土砂をため込むために、八代海への土砂の供給がなくなり、魚介類の大切な産卵場である藻場や砂干潟は消え、ヘドロのたまった泥干潟に変わりました。それとともに、魚介類は種類も数も激減。八代海の漁獲量も漁業者の数も、3分の1以下に激減しました。

荒瀬ダムをめぐる蒲島県政の迷走

■2002年12月 潮谷知事が撤去表明

2002年9月 荒瀬ダムのある坂本村議会が「荒瀬ダム継続反対」の意見書を可決。同年12月、潮谷義子知事が7年後の荒瀬ダム撤去を表明。（撤去費用60億円）

2003年3月 国交省は荒瀬ダム撤去を前提に7年間の水利権更新を許可。同年7月、「荒瀬ダム対策検討委員会」が発足し、具体的な撤去方法などの検討を開始。

熊本日日新聞
荒瀬ダム完全撤去
全国初 県が方針固める
水利権は短期で更新

熊本日日新聞　2002年11月29日

■2008年6月 蒲島知事が存続に転換

夕刊
熊本日日新聞
6月4日 水曜日
荒瀬ダム 撤去方針凍結
蒲島知事
見込み上回る費用
100億円 発電継続へ再検討

熊本日日新聞
2008年6月4日

2008年4月 蒲島郁夫知事が就任。

2008年6月 蒲島知事は突如、独断で荒瀬ダム撤去方針を凍結。（撤去費用72億円）

2008年11月 蒲島知事が荒瀬ダム存続を正式表明。（撤去費用92億円）

2009年8月 八代市長選挙で、荒瀬ダム撤去を公約に掲げた福島和敏氏が当選。

2009年9月 ダム事業見直しを掲げる鳩山政権が発足。

2010年1月 国土交通省が同年3月末で失効する水利権の更新手続きができないことを指摘。

■2010年2月 蒲島知事が再び撤去に

2月3日 蒲島知事が荒瀬ダムを2年後に撤去すると、再度方向転換。

2月20日 八代市坂本町で地元説明会。荒瀬ダム撤去を表明しながらも、発電事業を継続しようとする蒲島知事に、住民から批判が続出。

2月24日 蒲島知事が、球磨川漁協など地元の同意なしに、荒瀬ダムの新たな水利権を申請。

2月25日 蒲島知事が荒瀬ダムの新たな水利権を申請したことを、地元八代市長が批判。

2月26日 熊本県が、荒瀬ダムの新たな水利権申請について球磨川漁協から同意を得ることを断念。

夕刊
熊本日日新聞
2月3日 水曜日
荒瀬ダム撤去 12年度着手
知事 再転換を決断
自民県議団に説明 「直前まで発電継続」

熊本日日新聞
2010年2月3日

蒲島知事は直ちに
荒瀬ダム撤去に着手すべき！

●住民無視の蒲島県政

2008年（平成20年）3月の県知事選挙で、蒲島氏のマニフェストに荒瀬ダム存廃に関する記述はありませんでした。蒲島知事が、就任2ヶ月足らずで突如「荒瀬ダム存続」に転じたのは、旧通産省・建設省OBでつくる「未来エネルギー研究会」からの要望書がきっかけになったと報道されています。

「発電ありきから愛されるダムに転換する」と発言していた蒲島知事。荒瀬ダムを巡るこれまでの経緯や、地元住民の苦しみや願いなど、全く認識していませんでした。

●「だまし討ちにあった」のは住民だ！

2010年（平成22年）1月、「荒瀬ダムの新たな水利権申請には地元の同意が必要」との国土交通大臣の発言に対し、蒲島知事は「だまし討ちにあった」と述べました。地元八代市長や球磨川漁協、そして多くの住民が荒瀬ダムの撤去を求めています。そのような中、荒瀬ダムの新たな水利権を申請すること自体が、県民への「だまし討ち」です。

3 総合 平成22年(2010年) 1月16日 土曜日

蒲島知事

「だまし討ちにあった」

荒瀬ダム撤去問題 国交相発言に不快感

前原国交相の対応に不快感を示す蒲島知事＝熊本市

蒲島知事は15日、県営荒瀬ダム（八代市坂本町）が老朽化した川上作物の撤去支援の対象外になることも可能性に言及した前原国土交通相の発言に「驚きだ。支援の検討はもっと早く」と不快感を示した。

荒瀬ダムから始まった「だまし討ちにあった」と反発。前原国交省に水利権の更新を申請する考えを示した上で、同ダム撤去のために求めた国の支援策への回答が「早く来ていたら、早く（水利権更新の）手続きをしていた」と、回答の遅れが、更新手続きの遅れを招いたとの認識を示した。

「国交省が今夏までにまとめる撤去等支援の対応方針にも「それまで水利権を延ばしてもらい、その設備で」とあった上、所管の熊本空港で、荒瀬ダムの水利権が切れる3月末までに許可を出せないとしたことも「だまし討ち」だ。撤去を判断するはずだった」と強調。

前原氏が、来年度政府予算に盛り込まれた社会資本整備総合交付金（仮称）を、ダム撤去費用に活用するよう提案したことも「完了」請を断念するよう求める声明文を知事に送付。

同ダムの水利権更新申請は「新規」扱いとなるため、球磨川漁協の同意は不可欠と指摘。

一方、荒瀬ダムの撤去を求めている「前坂」地を取っている現状では許可「基準をクリアするのは困難」と主張している。

（鳥井宏一、野田一春）

熊本日日新聞
2010年1月16日

●水利権更新はできない！

2002年（平成14年）の荒瀬ダム「水利権更新申請時の事業計画概要」はダム撤去が前提の申請になっており、それに対して国が許可した「水利使用規則」にも、2010年（平成22年）3月31日で失効し、期限が来ても更新できないことになっています。それでも蒲島知事は、「2年間発電を続けたい」と言っています。

●4月1日以降、荒瀬ダムに水をためれば違法行為となる！

2010年（平成22年）2月24日、蒲島知事は、球磨川漁協など地元の同意なしに荒瀬ダムの新たな水利権を申請しました。過去のダムによる被害の清算もしないで、同意を得る努力もしないで、前例のない「同意なしの申請」を強行した蒲島知事。「発電した場合」と「発電しなかった場合」のコスト比較さえ示されていない中での、極めてずさんな申請です。

水利権が失効する2010年（平成22年）4月1日以降、荒瀬ダムに水をためることは違法行為となります。たとえ荒瀬ダムで発電すると仮定しても、ダムの維持費を差し引けば赤字になります。荒瀬ダム撤去を2年間引き延ばしても、熊本県には何の利益もなく、混乱を拡大するだけです。蒲島知事は直ちに荒瀬ダム撤去に着手すべきです。

荒瀬ダム撤去は
県民に大きな恩恵をもたらす！

2003年（平成15年）から毎年、冬場の2ヶ月間、ダム撤去を見すえた堆砂処理や護岸補修のために、荒瀬ダムがゲートを開けてほぼ空になり、すばらしい清流が復活しています。

いつもは、底にヘドロがたまった汚いダム湖が、流れが復活しただけで川底もぴかぴかになります。鎌瀬地区や中津道地区では、ダムの底から瀬が連続して出現しています。瀬は川の水に多くの酸素を取り込み、水質をきれいにします。

荒瀬ダムがなければ、川下りやラフティングもできる、すばらしい観光資源が生まれるでしょう。水害にたびたび襲われるダム湖周辺の地域は、洪水の水位がぐっと下がります。森林のミネラルなどの栄養分や砂利もそのまま八代海まで流れ、ヘドロもたまらなくなります。

荒瀬ダムがゲートを開けるようになってから、八代海の砂干潟に復活のきざしが見られます。また、ここ数年、魚介類の大切な産卵場となる藻場も増え始めています。荒瀬ダム撤去は、撤去工事による雇用創出や漁獲量の増加、観光の振興など、地域振興にもつながります。

白く濁った満水時の荒瀬ダム 2008年7月5日

ゲートを全開した荒瀬ダム 2004年1月24日

満水時の荒瀬ダム（坂本町中津道）2008年7月5日

ゲート全開時、清流が復活した同地点 2004年1月24日

熊本県の説明に対する住民の声

（2010年2月15日坂本町公民館　20日中津道社会教育センター）

「まだ2年間も発電をして、住民を苦しめるのか。2年間の水利権の延長は認められない」

「水利権を2年延長するといって、再び存続に転換して住民をだますのか。方針をたびたび変える知事の言葉は信用できない」

「2年間ダム撤去を待ってくれということは、知事は自分の任期中は荒瀬ダムは発電させてくれということと一緒ではないか。自分の任期が終わってから撤去工事に入るというのを信じられるわけがない」

「2年間とは言わず、『できるだけ早い時期に撤去します。そのための準備に入ります。発電はしません』と県に言ってもらえば、問題は解決する」

まとめ

■荒瀬ダム撤去で…

清流が取り戻せたなら尺アユも復活します！

- ●清流が復活する
- ●水害被害が減少する
- ●八代海が豊かになる
- ●撤去工事による雇用の創出
- ●球磨川や八代海の復活に伴う第一次産業の再生

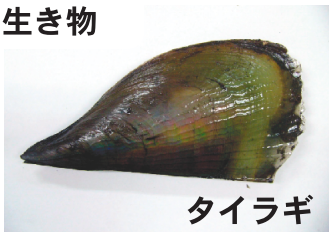
■荒瀬ダムで発電はできない！

- ●4月1日以降、ダムに水をためることは違法行為となる
- ●発電しても、ダム維持費を差し引けば赤字になる

荒瀬ダムのゲート全開で
球磨川・八代海に再生のきざし！

2003年（平成15年）から毎年、冬場の2ヶ月間、荒瀬ダムのゲートが全開されてきました。それまで森林のミネラルなどの栄養分はダム湖で堆積・ヘドロ化して、洪水時に一気に吐き出されていたために、下流や八代海に大きなダメージを与えていました。しかし、ゲート開放により、上流からの土砂や栄養分がそのまま八代海まで届くようになりました。干潟には砂が供給されるようになり、ヘドロの干潟では生息ができなかった様々な生き物が確実に増えつつあります。また、水の透明度が増した球磨川河口では良質のアオノリが採れるようになりました。

回復しつつある
様々な生き物



球磨川河口近くで採れるようになったアオノリ

ヘドロで歩けなかった干潟に砂が戻り、季節になると多くの市民がアナジャコ採りを楽しんでいます。ダムの撤去が実現すれば、さらに多くの生き物が干潟に戻ってくるでしょう。

編集・発行　子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会
清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会
美しい球磨川を守る市民の会

発行日：2010.3.3